

文子

○再びの唐招提寺春惜む

○寺の児に手を引かれてや花御堂

寅さんも食べた八栗寺草の餅

酔花

春の行く黄砂まみれの尾をみせて

雨粒にかくし黄砂といういくさ

春の行く義弟もつれてゆきました

紀美



農子

惜春の高校野球決勝戦

辛党の夫婦好みし桜餅

万愚節トップニュースのトランプ波

えり

○持ち時間一日使い春惜しむ

桜餅黒文字楊枝緑茶付

ガラパゴス諸島の日和石鮫玉

迪子

草餅や野原一面そよぐ風

惜春や花びらじゅうたん風に舞う

かしこまるピカピカ集団一年生

初江

○行く春の小さな町の珈琲屋

○今日一日自分に甘く桜餅

姑にする栄養点滴花は葉に

志津子

○縁側にごろり寝転び春惜む

○母の手を思いだしては蓬餅

アネモネや海は異国の風が吹く

綾子

蒼穹を切り一閃の燕来る

君の手の欠片残りにて春惜しむ

春の雨片方の肩濡れている

丞子

春惜しむ齢重たき誕生日

草餅や山家の昼餉皿二つ

八重桜啄木鳥にたたかれ八重に散る

富子

妣に詫びて遺影に供ふ草餅や

水張田に稜線映る土讃線

春惜しむ絨毯のごと散ってゆき

瑞枝

○縁側の会話弾ける蓬餅

春惜しむ芭蕉遺品のくひな笛

惜春や「かごめかごめ」の田に立ちて

千代

○アルバムの花嫁褒めて桜餅

○自転車で巡る飛鳥路草の餅

惜春の空を一周観覧車

郁子(土)

○惜春や教え子のもう古希となり

貼紙す草餅ありと山の茶屋

あん好きの夫に草餅供えけり

郁子(岡)

○手にとれば笑顔になれる桜餅

いつまでもしまえぬままの春ごたつ

風光る夢に向かって新社員

★次回市民句会

【開催日時】

令和七年五月二十八日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

味元 昭次 作品

老いることすこし忘れて桜餅

惜春の幡多の言葉は語尾を引く

祖母の名は鹿と云います草の餅

